

会議録

会議の名称	平成28年度第4回行財政改革推進委員会
開催日時	平成28年10月18日（火） 9時00分から10時00分まで
開催場所	田無庁舎3階 庁議室
出席者	委員：横道清孝委員長 原田久副委員長 伊藤俊介委員 鈴木文彦委員 中村良二委員 田中巖委員 牧野美佐子委員 渡辺文子委員 事務局：飯島企画部長 古厩企画政策課長 高橋企画部主幹 佐野企画政策課主査 近藤企画政策課主査 浅水企画政策課主事 水谷企画政策課主事
欠席者	なし
議題	1 事務事業評価（外部評価）について 2 その他連絡事項
会議資料の名称	資料1 平成28年度事務事業評価外部評価結果（最終案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>○発言者名： 発言内容</p> <p>《開会》</p> <p>○横道委員長： 定刻となりましたので、平成28年度第4回行財政改革推進委員会を開催いたします。</p> <p><u>議題1 事務事業評価（外部評価）について</u></p> <p>○横道委員長： それでは審議事項1「事務事業評価（外部評価）について」となります。 前回、各事業の評価を決定しましたが、この間、評価コメントを含めて、案をお示し</p>	

して、修正意見等をいただいたところです。本日は、修正意見等を踏まえ、評価コメントを含む外部評価を決定します。まずは、事務局より最終案について説明をお願いします。

○事務局：

《資料1 平成28年度事務事業評価外部評価結果（最終案）について説明》

○横道委員長：

事務局から外部評価結果（最終案）について説明がありました。

事前にいただいた修正意見も反映した案となっていますが、この案をもって決定ということではよろしいでしょうか。

《全員賛成》

○横道委員長：

それでは、本案をもって、行財政改革推進委員会における外部評価とします。

○田中委員：

今回の外部評価の結果については、特に意見はありませんが、今後に向けてこれまでの評価を通じて感じたことをお伝えしておきたいと思います。

1点目は、外部評価の対象となる事務事業の選定基準というものを明確にしていきたいということです。今回対象とした事業の他に第三者による評価が必要な事業があるのではないかと感じます。

2点目は、評価の判断基準の設定が適切ではないかということです。一般的な行政評価の基準としては、合法性・効果性・効率性・民主性などがありますが、第2回の委員会で配布された資料1「事務事業評価（外部評価）の実施方法について」では、こうした判断基準が「外部評価の視点」として挙げられています。一方、同資料で「評価基準」として挙げられているものは、正しくは「評価結果区分」、すなわち、事務事業を評価した結果に基づいて行われる、その事業を継続実施するか否かという判断の様態区分とすべきではないかと思います。加えて、「継続実施」、「改善・見直し」、「抜本的見直し」、「休止」、「廃止」という区分が分かりづらく、説明を聞いたうえで判断に迷いが生じます。それらは、一次評価、二次評価も含めて、「継続実施」、「見直し」、「休・廃止」の3区分程度として、そのいずれかを選択した理由を示すとともに、特に「見直し」とした場合には、抜本的見直しか改善か、事業の方向性として拡大か縮小か、といった見直しの内容を具体的に示したほうが、次年度以降の予算の方向性を判断するうえで、適切なのではないかと思います。

3点目は、評価の判断材料が、必ずしも十分ではないという点です。今回の子育て支援関連の保護者に対する助成事業についても、施設に対する補助の問題やその他の子育て支援事業の現状なども合わせて情報提供されたうえで、検討する必要があると考えます。また、事務事業を継続するかどうか、拡大か縮小かについては、その事業の必要性と併せて、財源状況が大きな判断材料になると思います。そのためにも事業の性格別、性質別の財源見通しのデータというものが併せて示される必要があると考えますので、検討していただきたいと思います。

○横道委員長：

いただいたご意見については、今後の外部評価を含め、事務事業評価の実施に当たり、参考にさせていただきたいと思えます。

議題2 その他連絡事項について

○横道委員長：

その他連絡事項について、事務局からお願いします。

○事務局：

事務事業評価外部評価について、3回にわたりご審議いただきありがとうございました。委員の皆様が11月をもって満了を迎えることとなりました。この間、第4次行財政改革大綱の進行管理をはじめとして、公共施設等総合管理計画の策定に向けたご議論など、様々な角度からご指摘やご意見をいただき、本市における行財政改革の取組が着実に前進したものと感じております。

ひとえに皆様のご協力の賜物と思っております。誠にありがとうございました。

○横道委員長：

本日の委員会が任期中最後の開催とのことですので、委員の皆様よりひとことお願いいたします。

○伊藤委員：

私は、公共施設の建築等の専門的立場で参加しましたが、財政に関わる委員会への参加は初めてでしたので、大変勉強になりました。行財政改革や事務事業を評価するという場合、コストを下げるための議論となりがちですが、地域施設や学校施設の研究をしている立場から、財政的な面とは別に、行政として維持・提供していく必要のあるサービスもあるという視点で発言してきたつもりです。合理的・効率的に自治体を運営することも重要ですが、経済合理性に乗らない部分を担うのも行政の役割ですので、改めて強調しておきたいと思えます。ありがとうございました。

○鈴木委員：

私は、西東京市民ではないので、客観的な立場で意見させていただき、非常に充実していました。第4次行財政改革大綱の策定に当たり、経営の概念を取り入れたことや公共施設等総合管理計画の基本方針では床面積を使った客観的な管理といった手法も新しく、印象に残っています。事務事業評価においても事業コストが評価シートに記載されており、先進的な取組であると思えます。私の知見と非常に相性の良いテーマでしたが、議論の中で、行政の職員の方々が、様々な制約がある中で、市民のためを考えて日々取り組まれていることが伝わり、私にとっても刺激となりました。今後も、より良い市政のためにご尽力いただくとともに、少しでも貢献できればと考えています。ありがとうございました。

○田中委員：

2014年11月より足掛け3年、委員会を通じて、最新の情報を知る機会もあって非常

に勉強になりました。様々な情報や資料を作成・提供いただいた職員の方々にも感謝申し上げます。提供いただいた資料等を見ましても、市民のニーズに対応して、様々な作業を行い、苦勞されていることを感じました。これからも、市民のための行政を進めていただきたいと思います。

これからの望ましい行政を考える場合に、基礎となるのは市民のニーズだと思いますが、行政だけではなく、議会や議員の方々にもパブリックコメントに寄せられたような個々の事業に対する意見を受け止めていただく必要があると感じています。議員の方々が仲立ちして、地域における個々のニーズを住民相互でも話し合い、単なる要望ではなく、パブリックで質の高いものに仕上げていくといった仕組みづくりを進めていただきたいと思います。お隣の小平市では、2014年3月に議会基本条例が制定・施行され、議会報告会を年2回以上行うことが義務付けられました。2015年の7月に開催された「市民と議員の意見交換会」と銘打った議会報告会に参加したことがあります。意見交換会には全会派が参加し、議員の方々だけでなく地域の住民同士が積極的に意見を出し合って自治意識の質的な高まりというものを実感しました。議員の方も、それを受けて、単に行政に求めるだけでなく、財源的な裏付けを持った具体的な政策を練って、行政へ提案していくといった取組がされているようです。

長くなりましたが、この委員会に参加する中で感じたことを申し上げます。ありがとうございました。

○渡辺委員：

昨年5月より参加させていただきました。初めは、学識委員の皆様の議論についていけず戸惑うこともありましたが、その都度、勉強させていただきました。委員会に参加する中で、西東京市の財政状況も良くわかり、我が家の家計に置き換えて考えるようになりました。外部評価の生ごみ処理の件では、地域の方とも話し合い、改めて周囲のゴミの出し方を注意して見てみると、まだまだ、ごみ減量に向けた取組が必要だと感じました。この委員会に参加して大変勉強になりました。ありがとうございました。

○牧野委員：

子育てが落ち着いて、何か市の活動に参加しようと応募しました。資料の説明や委員の皆様の意見などを漏れなく聴こうという姿勢で望んでいましたので、会議が終わるとぐったりしていました。20年このまちに住んでいますが、行政の方々の努力というのも、この委員会に参加しないと分からないままでしたので、本当に勉強になりました。市内小・中学校の情報教育支援や音訳のボランティア活動などに関わり、現場の当事者の立場では、もう少し予算があればと思うこともありますが、こうした意見も吸い上げて、予算配分等を検討していただけると良いと思います。学識委員の皆様も分かりやすく噛み砕いて説明していただき、大変参考になりました。ありがとうございました。

○中村委員：

この委員会はこれまで3期務めさせていただきました。私の所属する組織は厚生労働省の政策を決定するための基礎資料の収集が主な業務となっていますが、実際の行政の現場の方々が市民の声を丁寧に聴きながら、現在の課題だけでなく将来的な中・長期的な方向性も見据えて、予算を含め様々な制約がある中で、優先順位を決定しているということが良くわかりました。以前ほどではないにしても、行政に対する厳しい眼差しは続くと思いますが、市民の皆様が日常において、政府や行政というものを意識しないで

生活できるということが、本当の行政の力だと思いますので、市のスタッフの方々が燃え尽きてしまわない範囲で、これからも市民のために、業務に当たっていただきたいと思います。ありがとうございました。

○原田副委員長：

就任に当たり、市民の立場という観点で選出されたと記憶していますが、副委員長として、主観的になれなかったことが反省点です。私からしますと、九州や四国には財政力指数の高い自治体がほとんどありませんので、西東京市は、他の多くの自治体と比較しても非常に贅沢な自治体だと思っていて、夕張市をはじめ、財政再建団体に陥った自治体からすれば、事務事業評価にしても客観的に見ると贅沢な議論だといえます。しかしながら、それほど贅沢な自治体であるという自覚が市民の皆様にはない、ということが一市民として非常に残念に思います。贅沢な中での贅沢な悩みでも良いとは思いますが、今後も行財政における政府間関係が変わらないとすれば、今後も同じような議論になってしまうのは研究者としては残念に思います。市民としてはサービスの向上というものも期待するのですが、主観的な自分と客観的な自分の差異というものを勉強する良い機会となりました。ありがとうございました。

○横道委員長：

今期の委員会は、公共施設等総合管理計画の策定に関する議論が中心となりました。原田委員の意見とも関連しますが、今後、今まで以上に市の財政状況は厳しくなってくるものと考えます。一方で、海外との比較をしますと、日本の国民は自治体を信頼し、自治体に頼りすぎている面もあり、今後大きな課題となってくると思います。公共施設等総合管理計画もそのひとつで、計画を進めていくうえでは、様々な問題も出てくると思いますので、市民の皆様へ丁寧に対応しながら進めていく必要があると思います。

この2年間、委員の皆様にご協力をいただき、委員長としても感謝しております。ありがとうございました。

○横道委員長：

それでは、これもちまして本日の会議を終了します。
2年間ありがとうございました。

以上